

いのちまもる キャラバン行動ニュース

第3号

2013年9月25日

日本医労連

TEL : 03-3875-5871

FAX : 03-3875-6270

第2弾

全国で「いのちまもる地域キャラバン行動」が一斉に開始されました。第2弾です！

少数ながらも現場からの懸命な訴えに多くの市民が足を止めてくれ、あっという間に約100筆もの署名が集まり、同時にたくさんの元気をいただきました。今度は私たちがこの声に応える番。半沢直樹じゃないけれど「倍返し」で頑張ります。(青森県医労連)



あいにくの小雨の中、14人の参加者が市民に積極的に声をかけて、33筆の署名を集めることができました。市民からは「いつも病院にはお世話になっています」と、激励の声が。(岩手県医労連)

「自分も看護師なんです」「息子が医学生だから他人事じゃない」という方が進んで署名に協力してくれました。11月2日に行なわれる「なくせ原発！ふくしま大集会」も、いのちを守るキャラバンの一環に位置付け、奮闘します。(福島県医労連)



ブドウの季節で観光客があふれる武田神社では、社会保障についての訴えに、足をとめて聞いていた方から大きな拍手。緑ヶ丘公園では、通りがかりの女子高生が手を降っての大声援。沢山の声援を受け、上々のスタートとなりました。(山梨県医労連)

うさぎとパンダの着ぐるみが大人気で、子供たちだけでなく、若者やカップルも携帯で写真を撮り、署名にも気軽に応じてくれました。県医労連は11万筆を目標に、5月までに取りきろうと張り切ってスタートを切ることができました。(愛知県医労連)





和歌山県の「いのちを守る」イエロー作戦。9月14日にJR和歌山駅前で署名宣伝行動を実施しました。マスコミ2社が取材。7人が参加し、署名は32筆を集約しました。対県交渉では、民医労 長谷委員長が県に介護問題を訴えました。（和歌山県医労連）

宣伝では夜勤交替制労働者の長時間過密労働の実態や有害性を訴え、参加者それぞれがマイクを握りました。署名行動では30分間の行動で51筆を集めました。「良い医療、看護、介護を実現したい」という思いは県民共通であると実感しました。（島根県医労連）



徳島県医労連は定期大会の翌日7日に白衣宣伝を徳島駅前で行った。同時に各施設内での署名もスタートさせました。駅前宣伝は大雨の中、津川委員長が白衣で訴え、日本共産党県医療福祉部長の上村恭子氏が応援にかけつけました。（徳島県医労連）



キャラバンスタート行動にあわせて、県民広場にて宣伝署名行動を行いました。計8名が参加し、約100筆の署名を集めました。照り付ける太陽でめまいがしそうな程でしたが、「やっぱり外にでて反応があると元気が出ます」と、参加者からは今後も引き続き頑張ろうと声が上がりました。（沖縄県医労連）

ILO駐日事務所訪問

日本医労連は9月24日、来春に予定しているILO本部（ジュネーブ）訪問にあたって、日程調整などの準備を進めるため、都内にあるILO駐日事務所を訪問しました。山田中央執行委員長、中野書記長、三浦看護対策事務局長が、ILO上岡駐日代表、上村次長らと懇談。看護職員条約批准、または何らかの労働時間の法的規制を国に迫る上で、具体的なアドバイスを伺いました。懇談の中で、上岡代表は「日本が批准した条約（例えば第187号条約の労働安全衛生に関わる条約）をまず活用し、政府の見解とかけ離れている職場実態を、労働組合側から告発することが現実的なアプローチではないか」と述べ、日本で起きている「過労死」を例にあげました。懇談の最後に、上岡代表は自身の近親者に看護師いると話し看護師問題に理解を示しました。

